

令和7年度 再評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	主要地方道岸和田港塔原線歩道整備事業														
担当部署	都市整備部道路室道路環境課交通安全施設グループ（連絡先 06-6944-9283）														
事業箇所	岸和田市上町														
再評価理由	事業採択後 10 年間が経過した時点で継続中														
事業目的	<p>本路線は、岸和田市臨海部と山間部を結ぶ主要幹線道路であり、南海岸和田駅から公共施設や学校を結ぶ区間については、岸和田市が策定した岸和田市バリアフリー基本構想において、生活関連経路に位置付けられている。</p> <p>本事業箇所は、駅へのアクセス道路であることから交通量が非常に多く、歩行者、自転車利用者が多いにも関わらず、南側の歩道は幅員の確保や段差の改善等のバリアフリー化がされていないため、歩行者等の円滑な移動が困難であると共に歩行者と自転車が錯綜し危険な状態となっている。本事業は南側に歩道を拡幅整備することにより、歩行者等の安全と円滑な移動を図ることを目的としている。</p>														
事業内容	<p>歩道整備 事業延長：0.4km (現況) 道路幅員：16.5～19.0m 歩道：両側 [北側：3.0～4.5m、南側：1.5～4.0m] (計画) 道路幅員：22.0～27.0m 歩道：両側 [3.0～4.5m×2]</p>														
事業費 () 内の数値は事前評価時点のもの	<table border="1"> <tr> <td>全体事業費：約 7.1 億円（約 6.0 億円）〔国：3.9 億円、府：3.2 億円〕</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>(内訳) 調査費等 約 0.4 億円（約 0.1 億円）</td> <td>【工事費の内訳】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>用地費 約 1.9 億円（約 2.4 億円）</td> <td>歩道整備等 約 2.4 億円（約 1.7 億円）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事費 約 4.8 億円（約 3.5 億円）</td> <td>電線共同溝整備 約 2.4 億円（約 1.8 億円）</td> <td></td> </tr> </table>			全体事業費：約 7.1 億円（約 6.0 億円）〔国：3.9 億円、府：3.2 億円〕			(内訳) 調査費等 約 0.4 億円（約 0.1 億円）	【工事費の内訳】		用地費 約 1.9 億円（約 2.4 億円）	歩道整備等 約 2.4 億円（約 1.7 億円）		工事費 約 4.8 億円（約 3.5 億円）	電線共同溝整備 約 2.4 億円（約 1.8 億円）	
全体事業費：約 7.1 億円（約 6.0 億円）〔国：3.9 億円、府：3.2 億円〕															
(内訳) 調査費等 約 0.4 億円（約 0.1 億円）	【工事費の内訳】														
用地費 約 1.9 億円（約 2.4 億円）	歩道整備等 約 2.4 億円（約 1.7 億円）														
工事費 約 4.8 億円（約 3.5 億円）	電線共同溝整備 約 2.4 億円（約 1.8 億円）														
事業費の変更理由	<ul style="list-style-type: none"> 用地補償費の精査による減額及び工事費の精査による増額 														
維持管理費	<ul style="list-style-type: none"> 約 333 万円／年（年間約 34 万円／千m²：過去 5 年の実績より算出） 														

2 事業の必要性等に関する視点

	事前評価時点 H27	再評価時点 R7	変動要因の分析
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> 当該道路の状況 当該事業箇所は、南海岸和田駅へ接続する道路であり、岸城中学校や和泉高校、泉南府民センターや岸和田保健所等の公共施設を結ぶ道路となっている。特に朝夕は、駅利用者をはじめ通勤・通学による歩行者、自転車の多い箇所であるが、南側の歩道がバリアフリー化されておらず、歩行者等の円滑な移動が困難であるとともに歩行者と自転車が錯綜し危険な状態である。 周辺道路の交通量 H22 全国道路・街路交通情勢調査 自動車交通量 ： 18,469 台／24h 歩行者交通量 ： 1,167 人／12h 自転車交通量 ： 1,848 台／12h 	<ul style="list-style-type: none"> 当該道路の状況 当該事業箇所は、南海岸和田駅へ接続する道路であり、岸城中学校や和泉高校、泉南府民センターや岸和田保健所等の公共施設を結ぶ道路となっている。特に朝夕は、駅利用者をはじめ通勤・通学による歩行者、自転車の多い箇所であるが、南側の歩道がバリアフリー化されておらず、歩行者等の円滑な移動が困難であるとともに歩行者と自転車が錯綜し危険な状態である。 周辺道路の交通量 R3 全国道路・街路交通情勢調査 自動車交通量 ： 17,504 台／24h 歩行者交通量 ： 1,195 人／12h 自転車交通量 ： 1,164 台／12h 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の進捗により、交通事故件数は減少傾向である。 交通量は減少しているが、依然として事故が発生しており、早急に事業を進め交通安全対策が必要である。
地元の協力体制等	<ul style="list-style-type: none"> 岸和田市が策定したバリアフリー基本構想において、それぞれの役割分担で整備を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 岸和田市が策定したバリアフリー基本構想において、それぞれの役割分担で整備を進めている。 	
	事前評価時点 H27	再評価時点 R7	変動要因の分析

<p>事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標></p>	<p>交通安全事業における費用便益の分析手法が確立されていない。</p>		<table border="1" data-bbox="1170 53 2196 282"> <tr> <td data-bbox="1170 53 1372 282"><進捗状況></td><td data-bbox="1372 53 1686 282">-</td><td data-bbox="1686 53 1888 282"> <ul style="list-style-type: none"> ・全体 80% (5.7 億円／7.1 億円) ・調査費等 100% (0.4 億円／0.4 億円) ・用地 100% (1.9 億円／1.9 億円) ・工事 71% (3.4 億円／4.8 億円) </td><td data-bbox="1888 53 2196 282"></td></tr> <tr> <td data-bbox="1170 282 1372 441" rowspan="2">事業の必要性等に関する視点</td><td data-bbox="1372 282 1686 441"></td><td data-bbox="1686 282 2196 441"> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行者の安全安心の確保や交通の利便性の確保に資する事業であり、本事業区間においては、事業進捗に伴う歩道開放により交通事故件数が減少傾向ではあるが、依然として事故が発生している。 <p>以上のことより事業の必要性に変わりはない。</p> </td><td data-bbox="2196 282 2196 441"></td></tr> </table> <p>3 事業の進捗の見込みの視点</p> <table border="1" data-bbox="1170 504 2196 747"> <tr> <td data-bbox="1170 504 1372 747">事業の進捗の見込みの視点</td><td data-bbox="1372 504 2196 747"> <p>平成 29～令和 6 年度：用地買収 令和 7 年度～令和 9 年度：歩道整備工事等</p> <p>難航した用地交渉が令和 6 年度に完了した。引き続き、残る歩道整備工事等の進捗を図る。</p> </td></tr> </table> <p>4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点</p> <table border="1" data-bbox="1170 795 2196 1119"> <tr> <td data-bbox="1170 795 1372 1119">コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点</td><td data-bbox="1372 795 2196 1119"> <p>[コスト縮減]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事間土砂流用や再生材の使用により、コスト縮減を図ることとしている。 <p>[代替案立案の可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本工区で歩行者等の円滑な移動を確保するためには、幅員の確保、勾配や段差の改善など道路の両側にバリアフリー機能を有する歩道の整備が最善策であり代替案はない。 <p>以上のことから、原案が適切である。</p> </td></tr> </table>	<進捗状況>	-	<ul style="list-style-type: none"> ・全体 80% (5.7 億円／7.1 億円) ・調査費等 100% (0.4 億円／0.4 億円) ・用地 100% (1.9 億円／1.9 億円) ・工事 71% (3.4 億円／4.8 億円) 		事業の必要性等に関する視点		<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者の安全安心の確保や交通の利便性の確保に資する事業であり、本事業区間においては、事業進捗に伴う歩道開放により交通事故件数が減少傾向ではあるが、依然として事故が発生している。 <p>以上のことより事業の必要性に変わりはない。</p>		事業の進捗の見込みの視点	<p>平成 29～令和 6 年度：用地買収 令和 7 年度～令和 9 年度：歩道整備工事等</p> <p>難航した用地交渉が令和 6 年度に完了した。引き続き、残る歩道整備工事等の進捗を図る。</p>	コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	<p>[コスト縮減]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事間土砂流用や再生材の使用により、コスト縮減を図ることとしている。 <p>[代替案立案の可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本工区で歩行者等の円滑な移動を確保するためには、幅員の確保、勾配や段差の改善など道路の両側にバリアフリー機能を有する歩道の整備が最善策であり代替案はない。 <p>以上のことから、原案が適切である。</p>
<進捗状況>	-	<ul style="list-style-type: none"> ・全体 80% (5.7 億円／7.1 億円) ・調査費等 100% (0.4 億円／0.4 億円) ・用地 100% (1.9 億円／1.9 億円) ・工事 71% (3.4 億円／4.8 億円) 													
事業の必要性等に関する視点		<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者の安全安心の確保や交通の利便性の確保に資する事業であり、本事業区間においては、事業進捗に伴う歩道開放により交通事故件数が減少傾向ではあるが、依然として事故が発生している。 <p>以上のことより事業の必要性に変わりはない。</p>													
	事業の進捗の見込みの視点	<p>平成 29～令和 6 年度：用地買収 令和 7 年度～令和 9 年度：歩道整備工事等</p> <p>難航した用地交渉が令和 6 年度に完了した。引き続き、残る歩道整備工事等の進捗を図る。</p>													
コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	<p>[コスト縮減]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事間土砂流用や再生材の使用により、コスト縮減を図ることとしている。 <p>[代替案立案の可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本工区で歩行者等の円滑な移動を確保するためには、幅員の確保、勾配や段差の改善など道路の両側にバリアフリー機能を有する歩道の整備が最善策であり代替案はない。 <p>以上のことから、原案が適切である。</p>														
<p>事業効果の定性的分析 (安全・安心、活力、快適性等の有効性)</p>	<p>【安全・安心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両と歩行者等の通行を分離することで、歩行者等の安全が確保される。 ・周辺に小学校があり、児童の安全確保に寄与する。 <p>【快適性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な幅員が確保された歩道の整備により快適性が向上する。 ・バリアフリー化の推進、歩行者交通等の利便性向上に寄与する。 <p>【受益者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路利用者、地域住民 														

	事前評価時点 H27	再評価時点 R7	変動要因の分析
事業の進捗状況 <経過>	① 平成 28 年度 ② 平成 28 年度 ③ 令和 2 年度	① 平成 28 年度 ② 平成 28 年度 ③ 令和 9 年度	
①事業採択年度			
②事業着工年度			
③完成予定年度			

5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	・周辺は市街地が形成されており、本事業において新たに自然環境に影響をあたえることはない。
事前評価時の意見 具申（付帯意見） と府の対応	一
上位計画等	・大阪府都市整備中期計画（R3.3 改訂） ・岸和田市バリアフリー基本構想
その他特記事項	一

6 評価結果

評価結果	○事業継続 ＜判断の理由＞ ・岸和田市が策定した岸和田市バリアフリー基本構想において、南海岸和田駅から公共施設や学校を結ぶ区間が生活関連経路に位置付けられていること。 ・依然として事故の発生、継続して地元から整備要望があること 以上の理由から、事業を継続する。
------	--

令和7年度 再評価 主要地方道 岸和田港塔原線 歩道整備事業

事業箇所図

平面図

現況写真

標準断面図

(整備前)

(整備後)